

はじめに

昭和21年12月21日早朝、今から57年前、徳島市は、マグニチュード8.0を記録した大地震に襲われました。「昭和南海地震」です。平成7年1月に起こった阪神淡路大震災より遙かに大きな地震でした。

今回のアンケート調査は、現在65歳以上で、当時、徳島市内にて地震を体験した方を対象としています。アンケート調査の協力者数は、約2200名です。設問内容を表2-1に示します。

調査結果には、直接、地震を体験した方々の多くの体験情報が示されています。これらの調査結果は、今後起こりうる地震に備えての大変貴重な資料となります。

表2-1 アンケート設問内容

| 番号 | 内容 |
|-----|------------------------|
| 設問1 | 回答者の年齢、性別、当時の住まい |
| 設問2 | 地震が起きたときのこと |
| 設問3 | 地震の被害（人・建物の被害・火事・山くずれ） |
| 設問4 | 地震の被害（津波） |
| 設問5 | 地震時の避難 |
| 設問6 | 地震時に困ったこと、助かったこと |
| 設問7 | 昭和南海地震の教訓 |
| 設問8 | 今後の調査への協力 |

設問1 回答者の年齢、性別、当時の住まい

アンケートの回答者は、65歳～79歳（当時の年齢8歳～22歳）の方が83%でした（図2-1）。そして、回答者の割合が一番多い

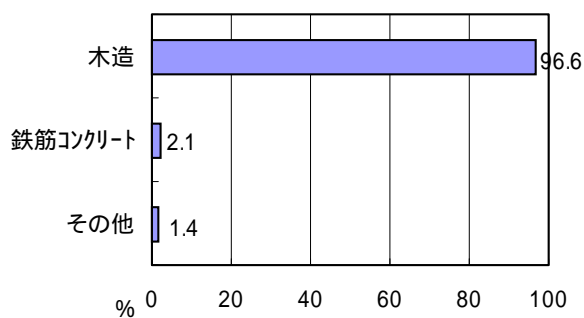


図2-2 当時の住まい・種類
回答者数 2239人

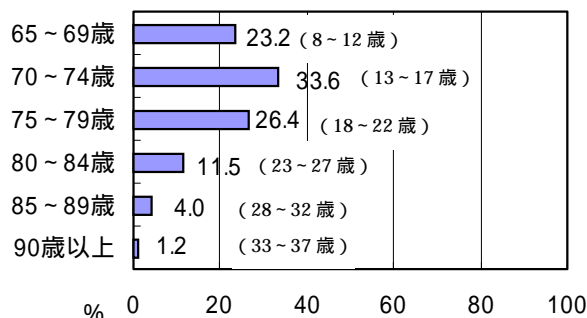


図2-1 回答者の年齢
回答者数 2239人
()内は当時の年齢

年代は、70～74歳でした。地震体験当時の年齢は13～17歳で、現在の中学一年生～高校二年生の年代にあたります。男女比は、男性60%、女性40%でした。また、「当時の住まい」については、木造建てが96%と圧倒的に多く、続いて鉄筋コンクリート建てが2%でした(図2-2)。そして、「家屋の階数」については、一階建ての家屋が55%、二階建ての家屋が43%の結果で、アンケート回答者の98%の方が一～二階建ての家屋に住んでいました。当時の徳島市内の家屋が、一～二階の低層住宅であることがわかります。また、地震発生的一年半前の「徳島大空襲」により、市街地の約60%が焼失しており、ほぼ焼野原になった当時の徳島市は、現在のように民家が密集してはいませんでした。

設問2 地震が起きた時のこと

地震を「よく覚えている」、「少し覚えている」と回答した人の合計は、全体の87%でした(図2-3)。また、地震が起きた時、「自宅にいた」と回答した人の割合は、全体の82%でした。地震発生が早朝4時過ぎのため、回答者の大半が自宅で睡眠中であったと思われる。「地震は、怖かったですか」との問いでは、「とても怖かった」、「怖かった」と回答した人の合計は、75%でした。「地震の揺れの時間」については、「10～20秒くらい」9%、「30～40秒くらい」20%、「1分くらい」15%の結果でした。約30%の人は、覚えていないと回答しています(図2-4)。

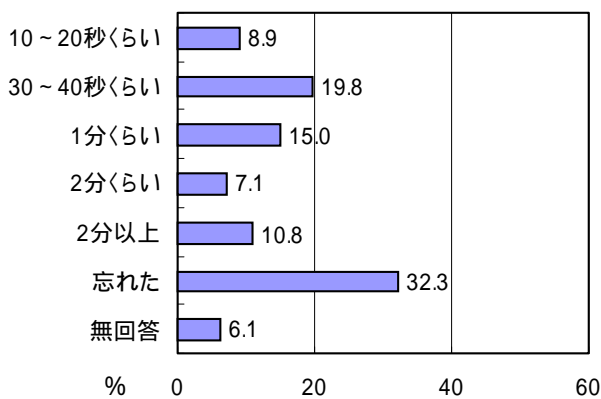


図2-4 揺れの長さは 回答者数 2239人

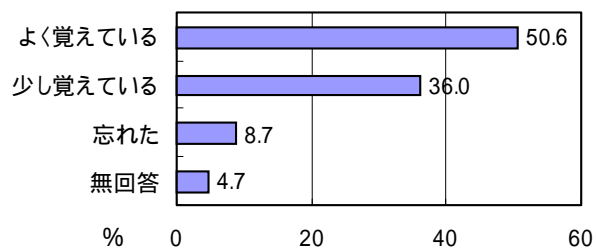


図2-3 地震を覚えているか 回答者数 2134人

設問3 地震の被害

(人・建物の被害・火事・山くずれ)

【人の被害】

家庭・近所・職場での「人の被害」は、「あった」5%、「なかった」75%でした。また、人の被害状況は、「死亡者」を見た回答者が32名、「大ケガ人」を見た回答者22名、「ケガ人」を見た回答者が73名いました(図2-5)。これらの結果より、第1章「表1-1」に示される被害規模より、実際の被害が大きかった可能性もつかげえます。

【建物の被害】

家庭・近所・職場での「建物の被害」は、「あった」と回答した人が20%で、その被害状況は、図2-6のとおりです。

【火事】

「火災」については、これまで被害が報告されていませんでしたが、今回の調査で

回答者の1%(23名)の方から、徳島市において火災発生の情報がありました。

【山くずれ】

「山くずれ」については、「10ヶ所ほど」0.1%(約2名)、「5~6ヶ所」0.4%(10名)、「1~3ヶ所」3.4%(76名)の被害発生が報告されており、件数は少ないものの地震による山くずれ被害の存在が、今回確認されました。

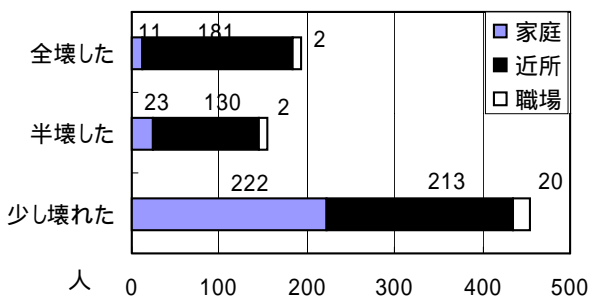


図2-6 建物の被害・状況
回答者数 2239人

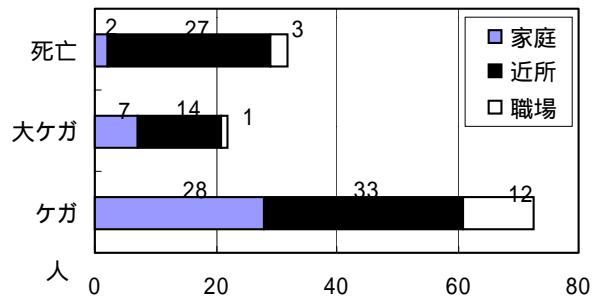


図2-5 人の被害・状況
回答者数 2239人

設問4 地震の被害（津波）

【津波の経験】

徳島市内での津波経験は、「直接津波を体験した」人が10%、「津波がきたことを聞いた」人が、32%でした（図2-7）。

【津波の高さと回数】

津波の高さは、回答者が体験した津波の高さについて設問したもので、全体の14%の方から回答を得ました。津波の高さは、津波高が0.5m、1.0m、1.5m、2.0m、2.5m以上として0.5mごとに分けて設問し、これら0.5mごとの各津波高で、それぞれ2~4%の体験したという回答を得ました。また、津波の回数が1~3回であったとする人が8%、4回以上の人が3%でした。

【津波の襲来情報】

「津波の襲来をどのように知りましたか」の質問には、「近所の人から」14%、「ラ

ジオから」12%、「自分で気づいた」7%の回答結果となりました（図2-8）。

【津波による被害】

「津波による被害」の設問では、全体で津波の被害を訴えた回答者が、33%でした。「川があふれた」と回答した人が8%と最も多く、これらの多くは、吉野川や新町川、勝浦川に面した地区の人からの回答となっています（図2-9）。

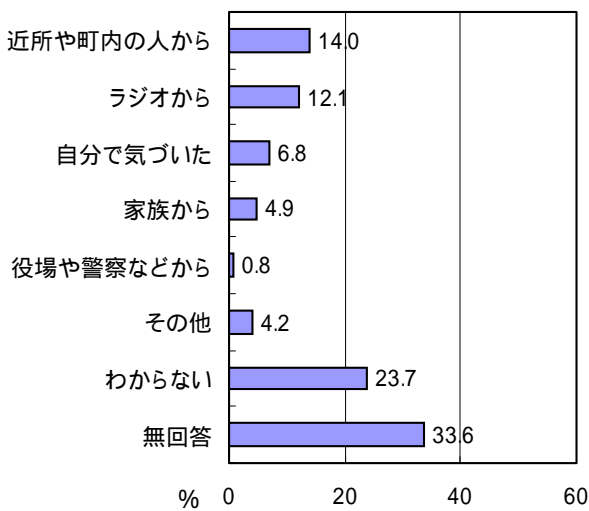


図2-8 津波襲来をどのように知ったか
回答者数 2239人

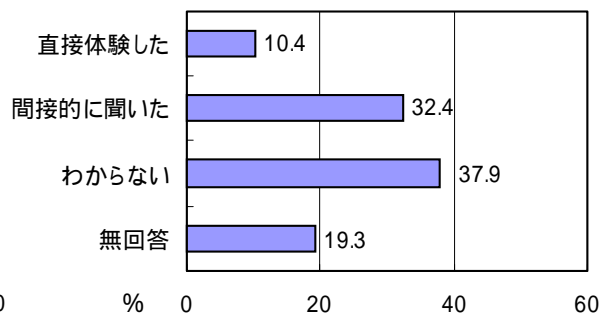


図2-7 津波の経験
回答者数 2239人

設問5 地震時の避難

【避難の有無】

地震時、「避難した」と答えた人が29%で、「避難しなかった」人が53%でした。

【避難の時刻】

「いつ頃、避難しましたか」という避難時期の質問には、「地震直後」が24%、「10分〜30分後」が5%、「40分〜2時間後」が0.8%という結果でした(図2-10)。避難行動をとった人のほとんどが30分以内に避難していたことがわかります。

【避難の理由】

「何故避難しましたか」という設問に対して、「もう一度、地震が来ると思ったから」49%、「津波がくるかもしれないから」13%、「近所の人が避難していたから」8%という結果でした。

【避難の場所】

自由回答により避難場所をお聞きしました。その結果、避難場所の上位として「屋外」、「家の庭」、「空き地」、「近くの畑」、「広場」など、家の近くのオープンスペースに避難していたことがわかります。徳島市内で飛躍的に市街地が進展した今、57年前にあった避難スペースの多くが存在していない、という現実を直視しておく必要があります。

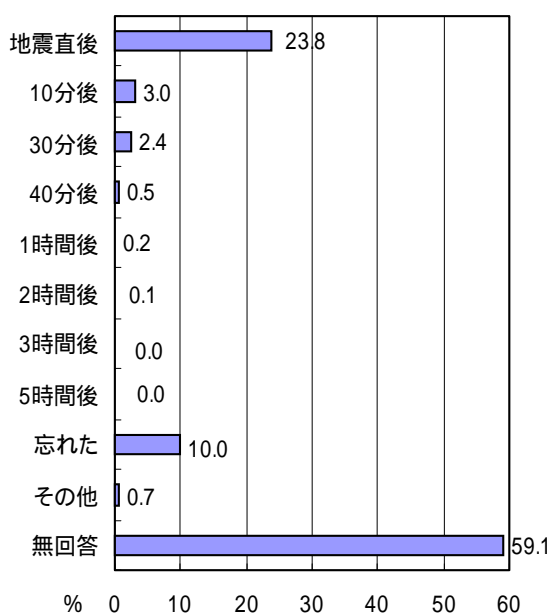


図2-10 いつ頃避難したか
回答者数 2239人

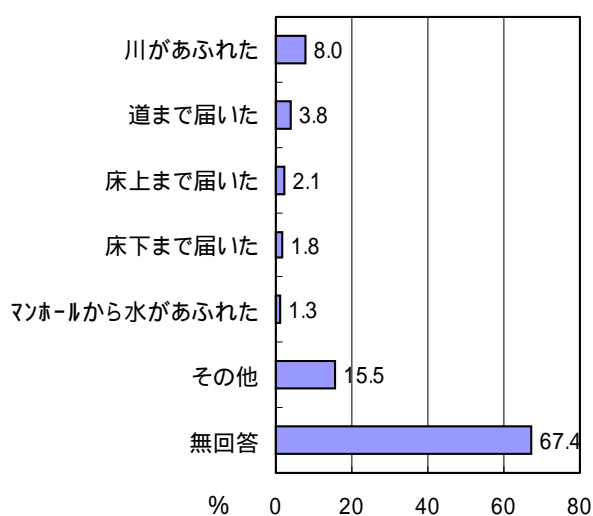


図2-9 津波による被害
回答者数 2239人

設問6 地震時に困ったこと、

助かったこと

この設問は、記述回答形式で行いました。そこには、地震体験者の生の声がありました。

地震で「困ったこと」、「助かったこと」について、調査結果から抜き出し、その主なものを表にまとめました（表2-2、表2-3）。

また、「地震時に活躍した組織」の設問では、警防団16%、自治会3.7%、警察3.4%、市役所0.7%の順でした。警防団とは、現在の消防団です。昭和南海地震当時、行政組織よりも、地域住民の自主的組織の活動が大きかったことがわかります。

表2-2 困ったこと（抜粋）

| 困ったこと |
|-------------------------|
| 人 |
| ・子供が小さかったので老人と病人の救出 |
| 建物 |
| ・住む家が壊れた |
| ・出入口や窓が開かなかった |
| 食料 |
| ・水不足（井戸水が乾いた） |
| ・食べ物、飲み水がなかった |
| 電気 |
| ・電線が切れ、停電した |
| ・電灯が何日もつかなかった |
| 交通 |
| ・自動車や乗り物が止まった |
| ・道路の破壊により、車が通れなかった |
| 情報 |
| ・情報が少なかった、入らなかった |
| ・デマ、噂が多かった |
| 避難 |
| ・避難場所がわからない |
| ・市内で広場が少なかったため、逃げ場所に困った |
| 水害 |
| ・床上浸水した |
| ・地割れにより、水が噴き出した |
| その他 |
| ・寝間着のまま飛び出したので、寒かった |
| ・薬がなかった |
| ・物品の盗難 |

表2-3 助かったこと（抜粋）

| 助かったこと |
|-------------------------|
| 人 |
| ・ボランティアが活躍した |
| ・近所同士の助け合い |
| 建物 |
| ・家が壊れなかった |
| ・建物、家財道具に損害がなかった |
| 食料 |
| ・生活用、飲み水を取っておい |
| た |
| ・農家であったため、自給自足できた |
| 電気 |
| ・電池と電話があった |
| ・懐中電灯が役に立った |
| 情報 |
| ・警防団（現：消防団）の人が色々知らせにきた |
| ・携帯用ラジオがあったので、情報がよく分かった |
| 避難 |
| ・近所に広場があった（避難所があった） |
| ・声を掛け合い、一箇所に集中避難した |
| 被害 |
| ・火災が起ころなかった |
| ・津波が小さかった、市街地まで津波は来なかった |
| その他 |
| ・被害に遭っていない町村からの援助があった |
| ・ローソク等を準備していた |

設問7 昭和南海地震の教訓

近い将来発生が予想されている「次の南海地震に活かすべき教訓」を自由回答により、答えていただきました。表2-4に、そのうちの一部を抜粋してまとめました。

「教訓」には、普段からの地震に対する心構えや、非常時に備えての準備の必要性、そして、何より大切な事として、人と人との助け合いの重要性などが記されています。

今回のアンケート調査は、昭和南海地震が起こってから57年という年月が経ち、初めて行われました。今回のアンケート調査は、同時に行われた聞き取り調査と共に、次のような特徴をもっています。

1. 徳島市において、昭和南海地震の体験者により、地震後57年を経て初めて行われた調査であること
 2. 調査結果には、これまで把握できなかった新たな地震被害や被害場所の情報を多く含んでいること
 3. 地震被災世代が次の世代へ伝える巨大地震への教訓を多く含んでいること
- 今回の調査は、地震発生直後の新聞等のマスコミで報道されなかった、昭和南海地震の多くの姿を写し出していると言えます。

表2-4 来るべき次の南海地震に活かすべき教訓（抜粋）

| 地震の教訓 | |
|-----------|---|
| 身体 | <ul style="list-style-type: none"> ・外に出る時、頭に何かをかぶって出る ・防寒対策、履き物をすぐ履けるようにしておく |
| 建物 | <ul style="list-style-type: none"> ・出口の確保 ・棚の物が落ちてこないように防止策、耐震構造にする |
| コミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・家族内で充分話し合いをししておく ・近所の人と助け合う |
| 行動 | <ul style="list-style-type: none"> ・あわてない ・冷静に行動する |
| 準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・日頃より常備品を準備し、手近に置いておく ・貴重品は、一つにまとめて袋に入れておく |
| 情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・的確な情報の伝達、周知 ・連絡体制を充分にする |
| 避難 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所、ルートを決めておく ・避難場所は常に住民に周知しておく |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から災害に対する認識強化 ・救助に対する体制の整備 |

